

- 新型コロナワクチンについては、現在の予防接種実施規則、臨時の予防接種実施要領においては、既感染者を対象から除外せず、事前の感染検査を不要としている。

【米国】既感染者であるかどうかに関係なく、ワクチン接種を受けるべき。

- ・ COVID-19は健康上のリスクが非常に高く、再感染の可能性もある。感染から回復してからどのくらいの期間、再感染から保護されるかはまだ不明。
- ・ モノクローナル抗体または回復期血漿での治療を受けた場合は、90日間待ってからワクチンを接種する必要がある。

(CDC [Frequently Asked Questions about COVID-19 Vaccination](#) Updated 12 May 2021)

【英国】既感染者であってもワクチン接種を受けることができる。

- ・ COVID-19感染の既往がある人や検出可能なCOVID-19抗体のある人にワクチンを接種しても、安全性に問題があるという証拠はない。
- ・ 感染が確認された患者では、鑑別診断の混乱を避けるためにワクチン接種を延期すべき。臨床的な悪化は感染後2週間以内に起こる可能性があるため、症状発現もしくは無症状での検査陽性から約4週間、また臨床的回復まで、接種を延期すべきである。

(英国公衆衛生庁 [COVID-19: the green book, chapter 14a](#). Last updated 7 May 2021)

【EU】既感染者に対するワクチンの効果を結論づける十分なデータはない。

- ・ ファイザー社/ビオンテック社の臨床試験では、ワクチンを接種したCOVID-19感染既往のある545人には追加の副作用は認められなかったが、既感染者にどの程度効果があるかを結論付ける十分なデータは得られていない。
- ・ モデルナ社の臨床試験では、ワクチンを接種したCOVID-19感染既往のある343人には追加の副作用は認められなかったが、既感染者にどの程度効果があるかを結論付ける十分なデータは得られていない。

(欧州医薬品庁 [Comirnaty: EPAR-Medicine overview](#). Last published 20 April 2021)

(欧州医薬品庁 [COVID-19 Vaccine Moderna: EPAR-Medicine overview](#). First published 20 January 2021)

【カナダ】既感染者もワクチン接種を受けるべき

- ・ 既感染者に対しても、完全な形で一連の新型コロナワクチン接種を提供することを推奨。
- ・ 既感染者に1回接種の有効性に関するデータが無く、2回目の安全性データが限られており、感染の重症度に関係なく、完全な形で接種を受けるべき

(公衆衛生庁 [National Advisory Committee on Immunization: Summary of updated vaccine statement of May 3, 2021](#))

【WHO】ワクチン接種の意思決定に際して、事前の感染確認の検査は推奨しない。

- ・ ファイザー社/ビオンテック社の第2/3相試験、モデルナ社の第3相試験から得られたデータからは、ワクチンはSARS-CoV-2感染の既往がある患者において安全である。追加的な予防効果はまだ確立されていない。
- ・ ワクチン接種に関する意思決定を目的としたウイルス検査または血清学的検査は推奨されない。初感染後6ヶ月以内の再感染はまれであることから、過去6ヶ月間にPCRによりSARS-CoV-2感染が確認された者は、この期間終了近くまでワクチン接種を遅らせることができる。

(WHO [Interim recommendations for use of the Pfizer-BioNTech COVID-19 vaccine, BNT162b2, under Emergency Use Listing](#) 8 January 2021)

(WHO [Interim recommendations for use of the Moderna mRNA-1273 vaccine against COVID-19](#) 25 January 2021)

<参考>

- ・ ファイザー社あるいはモデルナ社のワクチン接種を受けた既感染者の抗体反応と有害事象の発生率を未感染者と比較したデータでは、既感染者の初回接種後の抗体価が未感染者の再接種後と同レベル以上で、全身性の症状は既感染者に有意に多い。
- ・ 既感染者は未感染者と比較して、有意に高い抗体反応を示し、mRNAワクチン接種後の抗体、メモリーB細胞反応が異なり1回目で顕著な免疫反応を示し2回目では増加がなく、ファイザー社のワクチン接種を受けた既感染者は未感染者の2回接種後と比較し循環型抗スパイクIgG抗体価は同レベルだが中和抗体価は有意に高値等反応が異なる。
- ・ 施設居住の高齢者を対象としたデータでは、既感染者はワクチン単回投与の6か月後のIgG抗体価が、未感染者の単回投与の者に比して有意に高値で、6か月間高値を維持していた。

(米国からの報告: medRxiv doi:<https://doi.org/10.1101/2021.01.29.21250653>)

(<https://doi.org/10.1136/bmj.n308>, [https://doi.org/10.1016/S0140-6736\(21\)00501-8](https://doi.org/10.1016/S0140-6736(21)00501-8), <https://doi.org/10.1001/jama.2021.3341>, <https://doi.org/10.1056/NEJMc2101667>)

(<https://doi.org/10.1001/jama.2021.6042>)

論点

- ⑥-3 引き続き、既感染者を接種対象から除外せず、事前の感染検査は不要としてはどうか。